

### 髄液細胞数検査（目視法）における精度管理

◎垂水 俊樹<sup>1)</sup>

久留米大学病院<sup>1)</sup>

髄液検査は中枢神経系の病態を迅速に把握するためには欠くことのできない検査であり、髄液細胞数検査の算定および分類は各種中枢神経系感染症（髄膜炎や脳炎）の診断ならびに治療効果の推定を行ううえで重要な検査である。それ故に臨床からは品質の高い検査結果が求められている。

検査結果の品質を高めるためには日々の内部精度管理や他施設との結果値の客観的評価となる外部精度管理などが必要となる。

髄液細胞数検査の目視法では、自動分析装置などと違い校正物質や精度管理試料が存在しないために内部精度管理を実施するのは難しい。目視法の内部精度管理には患者検体やフォトを利用した目合わせなどが一般的に実施されており、同一検体にて目合わせを実施し細胞鑑別における技師間差をなくすことで品質保証に繋がる。しかしながら、細胞鑑別のみでなく検査に使用する染色液の染色性確認やピペットなど器具類の点検なども精度を保つための要素の一つである。

外部精度管理においては、血液検査や生化学免疫検査などと比較すると十分に行われていない部分もあるが、日本臨床衛生検査技師会、CAP 国際臨床検査成績評価プログラムなどにてフォトサーベイによる外部精度管理調査が実施されている。外部精度管理調査に参加し評価を得ることも重要となるが、結果によっては低評価を受ける場合もあり、その際の評価に対して原因追及を行うことも大切である。

本シンポジウムでは、当院における髄液細胞数検査の目視法における精度管理についての取り組みを紹介するとともに、シンポジウムのタイトルである「髄液検査～臨床から信頼されるために～皆んなで考えよう」のもと各施設における取り組みや問題点等について一緒に考えていきたい。